

令和3年12月23日(木) 15:00~15:40

## 第22回学校評価三者懇談会

会場 横浜総合高等学校 多目的1

出席者：校長 校長代理 副校長(全体司会) 副校長 生徒会生徒 学校評議員 PTA 副会長  
学校評価委員教員(学校評価説明教員、懇談会：司会 記録 受付 会場) 各分掌代表教員

1. 開会 副校長

2. 挨拶

- ・校長；会の主旨説明(コロナ禍での学校生活、委員会活動、生徒会活動、学校行事の制限、授業の充実が課題)
- ・評議委員長(中田様)；生徒会の充実がみられ、大変良いと感心しています。学業も頑張ってください。
- ・PTA副会長(小原様)；本日はよろしくお願いいたします。

3. 報告・懇談

(1) 学校評価集計結果報告(別紙あり)

- ・表の見方の説明  
[質問等]特になし

(2) 生徒会からの報告・提案(別紙あり) 生徒会長より

- ① コロナ禍における主な学校生活の変化について  
ゴミ箱の撤去、エレベーターの使用状況について  
時差通学、短縮授業、部活動委員会活動の制限  
[質問等]特になし

② 学校行事について

臨時生徒総会：放送で年に2回実施

スポーツ祭：無観客、無応援で校内実施。例年より多くの種目があったが、寂しいとの声もあった。

遠足：コロナ禍で中止

卒業生を送る会：行事としては中止になったが、卒業年次登校日に思い出ムービーなどを上映  
今年度も実行委員会が発足して準備中。

卒業式：I部のみとIIIII部合同の2回に分けて開催。送辞の生徒と、各家庭保護者1名のみ参加。

[質問・意見・感想等]

生徒会・小林先生

「無観客・無応援実施であったが、スポーツ祭のメインであるリレーや新しく行ったボッチャなど、応援したいという声や、実際に応援する人もいた。盛り上がる中、注意するのが心苦しかった。」

③ その他の意見

横総祭：一般開放なし。有志団体は基本的に飲食企画禁止。(一部では飲食は制限のある中で販売。)

マスクの着用や消毒の徹底や教室や体育館等では入場制限など感染対策をしながら行った。

生徒会活動：イベントの中止等が相次いだことから、校内の雰囲気をも明るくするため、ハロウィンやクリスマスなど季節毎に装飾を行った。

生徒からの声をより聞くため、目安箱の強化。設置場所の見直しや変更を行う。

また意見に対する回答を張り出した。

今年度多かった意見は感染対策に関するものや制服に関して(制服は10枚程度)。

制服についてはフリスペにてテーマノートで意見募集中。

[質問・意見・感想等]

生徒会・小林先生：

「テーマノートに出た制服に関する意見はどのようなものがあったのか教えてほしい。」

生徒会長：

「基本的に制服がほしいとの声が多い。意見の中には、制服を使用したくない人や、校風である自由を尊重をしたいため、選択性にしてはどうかというものもあった。他にも、制服を作る際にはお金がかかり、費用面の検討をしていく必要があるのではないかという意見もあった。」

キャリアガイダンス部・近藤(哲)先生：

「色々な活動を普段頑張っていて、良い点を伝える場が少ないため、今お伝えしたい。

スポーツ祭のボッチャが非常に良かった。車椅子の生徒も、そうでない生徒も皆で盛り上がってよかった。このようなユニバーサルな、皆が参加できる種目が増えると良い。

無応援について、応援グッズなどを上手く活用すれば、コロナ以前より盛り上がるのではないか。

コロナ禍の入学で、そのような状況の中、頑張るのがかっこいいと思ってきている。

その他に感動したのは横総祭の盆踊り。コロナ禍の2年間で新しいものが生み出されていく姿勢が非常に素晴らしい。

ゴミの捨て方(オブジェ)が良かった。ゴミの問題が議題にあがることが多いが、ゴミステーションの設置などを提案している。生徒会に限らず考えていきたい。」

#### 4. 学校評議員

中田様：

「これから三か月、一年、元戻り段階を学校は経験する。だが、元には戻らない。

当たり前だったものがこれをきっかけに無くなるものも、新しく増えるものもある。

元に戻るの是非常に大変。しかし来年度はまた違う状況の中で選択肢や可能性は広がっているはず。

その上で今年の生徒会は非常に重要な役割を担っていて、それを下に引き継ぐことになるだろう。

アイデアを出すことは重要であるが、想像には限界がある。意見を張り出すなどの取り組みを通して、生徒、教員、保護者などのアイデアを募る仕組みを作る。そのような空気を作ることが重要。

横総祭に向かって生徒たちが取り組む、プロセスが大事。そのような関係ができあがったというのが大事。

大学の生協でも意見を張り出し、そこで意見交換をする。真面目な回答の中にユーモアを混ぜる。面白くなっていったりやり取りが活性化する。繋がりを作っていく。

コロナ禍は皆さんにとっては窮屈であろうと思うが、やれることを着実にやっていっている。

来年度も頑張ってもらいたい。」

小原様：

「保護者は子どもたちを応援したいという気持ちが強い。PTAと連携して頼ってほしい！

これからももっと良い学校を創っていきましょう。」

#### 5. まとめ、閉会の挨拶

校長代理：

生徒会の意見も分かりやすく述べられていて、非常に良かった。

コロナ禍でできることを探してやっ払いこうというコンセプトで、形ができてきたのではないかと思う。

あとはこれをどう実現させていくか。さらなる発展に期待している。

生徒の主体的な取り組みが増えていると感じるが、生徒のアンケート結果を見ると生徒会活動などに積極的に参加の%がいつも低い。実際はそう悪くはないのかもしれない。

次の段階は、どのように全校生徒にアピールしていくか、巻き込んでいけるかが今後の生徒会活動の課題であると思う。

継続が大事であるから、今後も頑張っていってほしい。

## 6. 閉会